



自衛隊栃木地方協力本部

臨時勤務の神山空士長が母校訪問 ～サッカー一部顧問・担任教諭と5年ぶり再会～

自衛隊栃木地方協力本部宇都宮募集案内所（所長 大橋2陸尉）は10月12日（木）、募集課に臨時勤務している神山空士長の作新学院高校への母校訪問を支援した。

令和4年4月入隊の神山空士長は、高校・大学で女子サッカー一部に所属し主将も経験している。現在、入間基地第2輸送航空隊装備隊に所属しており、久しぶりの地元勤務期間に母校を訪ねてみたいと希望があった。最初に当時のサッカー部顧問の先生と面談、次に当時の担任教諭、そこで同級生が母校の教員になっていたことを知り、驚きの対面となり話に花が咲いた。

神山空士長は、「高校時代は主将としてチームをまとめる難しさを感じながら充実感もあり頑張っていた」「当時の経験が教育隊では班内のリーダーシップの発揮に活かしている」「集団生活できついと感じるよりも楽しいと感じる」と話していた。その後、思い出のグラウンドでサッカー部の練習に参加し指導に当たった。先生からは、「立派になったね」「進学、就職経験を後輩たちに伝えてほしい」「サッカー部員も良い刺激を受けていたよ」と喜びの言葉があった。

自衛官になって、教育隊から教育隊司令褒賞、術科学校から学校長褒賞を受賞している神山空士長、母校訪問して真っ先の感想は「やっぱりグラウンドが大きくて広い」「すごく懐かしい」とのことだった。宇都宮募集案内所は、「今後も、各学校との信頼関係を継続し、多種多様な自衛隊の魅力を発信して志願者獲得に繋げていく」としている。

潜水艦見学ツアー開催 ～心に残る特別な体験～



岸壁に到着し、潜水艦に向かう参加者達



潜水艦「たかしお」に掲げられた看板

自衛隊栃木地方協力本部（本部長 加藤浩一陸佐）は10月15日（日）、横須賀地区において募集対象者16名に対し、潜水艦見学ツアーを実施した。

岸壁に到着すると、停泊している潜水艦「たかしお」の黒く大きな姿に歓声が上がリ、普段は秘密のヴェールに包まれている潜水艦への期待が胸つた。潜水艦の入り口はまるでマンホールのようになっており、見学者はおそろおそろの中に入ると狭い空間を効率的に利用している潜水艦の構造にしきりに感心していた。特に食堂の椅子の中にジャガイモなどの野菜が保存されていたり、緊急時には士官室が手術室になったりするなど驚いた様子であった。潜水艦中が見えない潜水艦は、昼と夜を判別するため、昼は白、夜は赤色の照明がつき、隊員の居住区には体を起こすのが難しく狭い3段ベッドなど、通常の生活とは違う空間で生活する隊員に改めて感謝と労いの言葉が聞こえた。また、ビデオを用いての説明では、「海の忍者」と呼ばれる潜水艦乗員としての誇りやその責任感に、参加者たちは尊敬のまなざしで見つめていた。参加した学生は「海上自衛官に興味があったので、今日の見学とても楽しみにしていました。普段は絶対見れない潜水艦の中に入り、いろいろな話を聞くことができ、ますます興味を持ちました」と笑顔で話してくれた。

心に残る特別な体験に思いをはせ、名残惜しそうに岸壁に停泊している潜水艦を眺め、乗員の振る帽子に精一杯答へ、横須賀地区をあとにした。

栃木地本は「今後も、各種イベントを通じ募集対象者等に自衛隊の魅力を発信するとともに、艦艇広報は海の無い栃木県で海上自衛隊を体験してもらえらる特別なチャンスと捉え、積極的に実施していきたい」としている。



岸壁に停泊している複数の潜水艦を岸壁から見る事ができた。



潜水艦「たかしお」の前で記念撮影